

「北極海航路の持続的利用に向けた国際セミナー in 札幌」の開催

北海道総合政策部交通政策局物流港湾室 主査 山下 香

平成 25 年 9 月 6 日（金）、北極海航路の商業利用に焦点を当てた「北極海航路の持続的利用に向けた国際セミナー in 札幌」が、京王プラザホテル札幌において、130 人の参加者のもと開催されました。



会場の様子

北極海航路は、近年急速に進行している海水域の減少を背景に、本格的な商業運航の利用が現実的になってきました。また、東アジアと欧州との距離を大幅に短縮することから、近年、国際的に大きな注目を浴びており、我が国や中国においても、夏の期間の商業運航が始められています。

一方、北海道は北極海航路において最もベーリング海に近い東アジアの玄関口に位置し、物流機能の充実した国際港湾を有するといった優位性があります。

こうした中、北海道庁では、北東アジアにおける物流や人流の拠点を目指す「北東アジア・ターミナル構想」を推進しているところであり、本道が有する優位性を最大限に生かしながら、北極海航路の活用を、北東アジアのターミナル機能を果たすための重要な取組と位置付け、様々な取組を行っています。

本セミナーは、北極海航路に関する道民の関心喚起と理解促進を図るため、長年にわたり北極海航路の課題に取り組んできた海洋政策研究財団と北海道が共同で開催したもので、ロシア、ノルウェーの専門家による北極海航路の最新情報と、北海道庁からは「北極海航路に寄せる期待」について講演を行いました。

始めに岡嵯修平海洋政策財団常務理事からの主催者挨拶が行われ、続いて、高橋はるみ 北海道知事（荒川裕生副知事代読）の挨拶では、「現在の基幹航路上では東アジアの中で欧州から最も遠い北海道が、北極海航路の利用が進展すると欧州に最も近い東アジアの玄関口になる」と指摘し、「北海道経済活性化の起爆

剤となることが期待される北極海航路において、本道が重要な役割を果たすことを目指す」と述べました。

続く講演では、北海道庁の葛西悟 物流港湾室長が「北極海航路に寄せる期待」を発表し、本道が有する地理的優位性や高度な物流機能を紹介したうえで、

①「本道の港湾を中継基地として利用するコンテナ船の北極海航路の運航」、②「本道向けの LNG や鉄鉱石などバラ積み船による北極海航路の活用」、③「水産品貿易の拡大に向けた就航中の冷凍運搬船の活用」、④「北極海航路に関わりの深い企業立地の促進」、⑤「船員の訓練や氷海技術の研究フィールドとしての活用」の北極海航路を活用した北海道における 5 つの可能性を示し、「可能性を現実のものとすることで、欧州や欧州ロシアとの新たな経済関係を構築し、さらには北海道経済が活性化することを期待する」と述べました。

続いて、ロシア中央船舶海洋設計研究所総裁、ロシア原子力船公社社長、フリチョフナンセン研究所長（ノルウェー）、チュディ海運社長（ノルウェー）など、北極海沿岸国の企業・研究機関トップの講演では、北極海航路に関する現在の利用船舶や貨物、今後の利用見通し、資源の埋蔵状況、氷海航行の規定などを発表し、日本企業に北極海航路の積極的な利用を呼びかけました。

また、質疑応答では、参加者から様々な内容の質問が提起され、活発な議論が行われました。

本セミナーは、北極海航路の活用や北海道の可能性などについて、改めて考える良い機会になったと思います。北海道庁としては、本セミナーを一つのステップとして、参加頂いた皆様をはじめ関係機関と連携を図りながら、引き続き北極海航路の活用に取り組んでいきたいと考えているところですので、今後とも宜しくお願いします。



北海道知事挨拶
（代読：荒川裕生副知事）

セミナー開催結果、配布資料などは、「海洋政策研究財団」のブログをご覧ください。

<http://blog.canpan.info/oprf/archive/1317>